

キャリア教育・進路指導

1 研究主題

自他のよさを認め、ふるさととのつながりを大切にしながら、
主体的に未来を切り拓くことができる生徒の育成

2 主題設定の理由

職業や生き方に一定のモデルがない、変化と多様性の時代だからこそ、将来、生徒が社会の中での自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくための働きかけを行うことが必要である。学校教育活動全般における学びと様々な体験活動を通して、自分のよさや自分の生まれ育った地域のよさを実感し、自分の生き方を主体的に考え、行動する生徒を育てたいと考え、本主題を設定した。

3 重点目標

- (1) 教育活動全体を通して、自分が「できること」について主体的に行動し、自らの思考や感情を律して、「やればできる」と考えて行動できるように支援する。
(自己理解・自己管理能力の向上)
- (2) 体験活動を通して、「働く」ことの意義を理解し、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら主体的に判断してキャリアを形成できるように支援する。
(キャリアプランニング能力の向上)

4 具体的施策

- (1) 自分が取り組むべき課題を達成するために、具体的で明確な目標をもてるように支援する。
- (2) 生徒の意欲を喚起させる目的及び手立てを明確にした共同的な学習活動を推進する。
- (3) 達成状況を確認することで、生徒が自らの取組を振り返り、問い続けながら、学んだことを現在及び将来の自己の生き方につなげて考えることができるようにする。
- (4) 生活ノートを活用し、計画性の育成、目標設定と振り返りの機会の充実による、自己理解の深化を図る取組を推進する。
- (5) 各学年で学校行事、生徒会活動との関わりをもちながら、学級活動、総合的な学習の時間（松陵学習）を柱とした進路学習の充実を図る。
- (6) 各学年について、次の事項を重点目標として設定し、実践する。
 - ① 第1学年
 - ・自分が「できること」について理解し、主体的に行動しようとしたり、自らの思考や感情を律したりしようとする。
 - ・地域の人との関わりを通して、ふるさとのよさを発見できる。
 - ・自分の将来や働くことへの興味・関心を高め、主体的に情報を収集しようとすることができる。
 - ② 第2学年
 - ・自分が「できること」について、主体的に行動し、自らの感情を律することができる。
 - ・地域で働く人との関わりを通して、地域への理解を深めることができる。
 - ・自己理解を深め、具体的に自分の進路計画を検討することができる。
 - ③ 第3学年
 - ・自分が「できること」について、主体的に行動し、自らの感情を律し、「やればできる」と考えて行動できる。
 - ・地域のために自分が貢献できることを考えようとする。
 - ・将来設計を達成するため、より具体的な進路について考え、判断し、困難に立ち向かおうとする。

令和2年度 キャリア教育全体計画

キャリア教育の定義
一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育＜中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」＞

県学校教育の指針 地域に根ざしたキャリア教育の充実
1 キャリア教育のねらいの共有と成果の発信
ふるさと教育全体計画や各教科等の年間指導計画を改善するとともに、学校報やPTA等での広報活動、職場体験・インターンシップ依頼時の事業所等への説明、秋田わか杉七つの「はぐくみ」の活用等を通して、キャリア教育のねらいと成果を学校と家庭や地域、企業等と共有し、連携・協働して子どもたちを育てる。
2 資質・能力の育成につながる体験活動の充実
学齢や発達段階を踏まえ、集団宿泊活動、職場体験、インターンシップ等の体験活動の充実を図り、様々な経験を通して、学ぶことや働くこと、生きることの尊さを実感させ、社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる資質・能力を育てる。また、地域の伝統を受け継ぐ活動や地域の産業に関わる活動、地域の課題や展望について考え発信する活動等の地域の活性化に貢献する活動を通して、広く社会に発信し行動できる人材の育成を図る。
3 キャリア発達を一層促すための学校間・校種間連携の推進
学校間・校種間における職場体験・インターンシップ先の共有及び授業や行事での交流を行うことで連携を図る。また、キャリアノート等のポートフォリオ的な教材を用い、小学校、中学校、高等学校の各段階における学習や生活を振り返って蓄積し、校種を超えて学びの履歴を把握することなどを通して、子供たち一人一人のキャリア発達を支援する。

中央地区学校教育の重点
社会的・職業的自律を目指すキャリア教育
◎教育活動全体の中で、基礎的・汎用的能力の育成に取り組む。
○ねらいを達成した子どもの姿を家庭や地域と共通理解し、連携して体験活動を実施する。
○キャリアノート等を活用し、自分のよさや可能性を将来につなげて考える機会を設定する。
(◎=今年度の重点事項 ○=重点事項の具現に向けた具体的実践事項)

潟上市学校教育の重点目標と努力事項
○重点目標
自他のよさに気付き、夢と希望のある生活や将来をつくり出す力の育成
＜かかわる みつめる むかう きめる すすむ＞
○努力事項
1 「育てたい力と子どもの姿」を共有し、家庭や地域等と連携して育てるキャリア教育の推進
2 係活動や当番活動、自然体験や社会体験、体験的な学習を通じた、きめ細かな生き方指導の充実
3 学ぶことと働くことの関わりから、生きることの尊さを実感させるための道徳教育との連携による指導の充実
4 幼稚園・保育園、小学校、中学校の連携を軸とした校種間を貫く教育の推進

学校の教育目標
自律 協同 学び合い
～堅忍不拔の精神で、夢に向かって努力する生徒の育成～

目指す生徒像
＜自律＞ ・困難なことにも粘り強く努力を継続する生徒
＜協同＞ ・仲間を尊重し思いやることのできる生徒
＜学び合い＞ ・活動を通して互いに理解し合い、関わりを深め合う生徒

本校のキャリア教育の重点目標
1 教育活動全体を通して、自分が「できること」について主体的に行動し、自らの思考や感情を律して、「やればできる」と考えて行動できるように支援する。(自己理解・自己管理能力の向上)
2 体験活動を通して、「働く」ことの意義を理解し、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら主体的に判断してキャリアを形成できるように支援する。(キャリアプランニング能力の向上)

基本方針
1 自分が取り組むべき課題を達成するために、具体的で明確な目標をもてるように支援する。
2 生徒の意欲を喚起させる目的及び手立てを明確にした共同的な学習活動を推進する。
3 達成状況を確かめることで、生徒が自らの取組を振り返り、問い続けながら、学んだことを現在及び将来の自己の生き方につなげて考えることができるようにする。
4 生活ノートを活用し、計画性の育成、目標設定と振り返りの機会の充実による自己理解の深化を図る取組を推進する。
5 各学年で学校行事、生徒会活動との関わりをもちながら、学級活動、総合的な学習の時間を柱とした進路学習の充実を図る。

キャリア教育研究主題（目指すべき生徒の姿）
自他のよさを認め、ふるさととのつながりを大切にしながら、主体的に未来を切り拓くことができる生徒の育成

生徒の現状
【令和元年度 県学習状況調査「学習意欲等に関するアンケート（生徒質問用紙）集計結果】
◆「人の役に立つ人間になりたいと思う」（人間関係形成・社会形成能力）
・当てはまる 77%
◆「自分にはよいところがあると思う」（自己理解・自己管理能力）
・当てはまる 36.4%
◆「将来の夢や目標をもっている」（課題対応能力）
・当てはまる 61.1%
◆「普段の生活や社会に出たときに役に立つよう、勉強したい」（キャリアプランニング能力）
・当てはまる 65.7%
◆「勉強が好きだ」（キャリアプランニング能力）
・当てはまる 10.9%
○ 将来の夢や目標をもち、人の役に立つ人間になるために社会で役に立つよう、勉強したいと考えている。しかし、勉強を好む生徒が少なく、自分にはよいところがあるという意識が低い。
教育活動全体を通して、自己有用感をもてるような働きかけをして、「やればできる」と考えて行動できるように支援していきたい。

キャリア発達に関わる達成すべき課題（現状と目標の差からみた生徒の課題）				
人間関係形成・社会形成能力【かかわる】	自己理解・自己管理能力【みつめる】	課題対応能力【むかう】	キャリアプランニング能力【きめる】	意欲・態度【すすむ】
●【みつめる】		●【きめる】		

各学年の重点目標		
第1学年	第2学年	第3学年
<ul style="list-style-type: none"> 自分が「できること」について理解し、主体的に行動しようとしたり、自らの感情を律したりしようとする。 地域のひととの関わりを通して、ふるさとでのよさを発見できる。 自分の将来や働くことへの興味・関心を高め、主体的に情報を収集しようとする事ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が「できること」について、主体的に行動し、自らの感情を律することができる。 地域で働くひととの関わりを通して、地域への理解を深める。 自己理解を深め、具体的に自分の進路計画を検討できるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が「できること」について、主体的に行動し、自らの感情を律し、「やればできる」と考えて行動できる。 地域のために自分が貢献できることを考えようとする。 将来設計を達成するため、困難に立ち向かおうとする態度を育てる。

教科科	道徳科	総合的な学習の時間	特別活動	その他の教育活動
<ul style="list-style-type: none"> 目的及び意義を明確にした協働的な学習活動の推進を通して、自己理解を深め、「やればできる」と考えて行動できる 資質・能力を育てる。 自己理解、問題解決、自己評価、課題設定（PDCA）という学習過程を重視した指導を通して、自ら問題を解決し、学び続ける資質・能力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 主として自分自身に関すること【向上心、個性の伸長】 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに個性を伸ばして充実した生き方を追究すること。 【希望と勇氣、克己と強い意志】 より高い目標を設定し、その達成を目指し希望と勇氣をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。 	<ul style="list-style-type: none"> 【目標】地域のひととの「出会い・触れ合い・学び合い」を重視し、協同的、探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質・能力を育成する。 育てたい資質・能力】 ＜課題設定＞＜表現＞＜計画実行＞ ＜自己理解＞＜自己評価＞＜協同＞ ＜他者理解＞ 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成 イ 一人一人のキャリア形成と自己実現 ウ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成 ウ 主体的な進路の選択と将来設計 	<ul style="list-style-type: none"> 生活ノートの活用を通して、目標設定と振り返りの機会を設定し、計画性を育成するとともに、自己理解の深化を図る。 キャリアポートフォリオの活用により、生徒の自己理解の深化を支援する。

教科等の授業に共通する基本的な考え方

